

12th DOSHISHA UNIVERSITY

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

変わらないものと 変わるものが紡ぐ、 文化と学びの新しいかたち

NEW BUSINESS FORUM

デジタル技術は文化や情報へのアクセスを広げ、リアルな資料や技はその奥行きを支えます。本フォーラムでは、図書館、古典籍、伝統芸能をめぐる「変わるものと変わらないもの」が交差する場を通じて、両者の価値を未来へどうつなぐかを考えます。

開催日

2026年 **3月5日** 木
10:00~13:20 (開場9:45)

開催形式

オンライン開催

主催

同志社大学研究開発推進機構

後援

三井住友銀行
関西イノベーションイニシアティブ (KSII)
一般社団法人産学連携推進協会

お問い合わせ

同志社大学 リエゾンオフィス
TEL: 0774-65-6223 MAIL: li-event@mail.doshisha.ac.jp

事前申込制
参加費無料

定員: **300名** (先着順)

対象: 教育・文化関連機関、
企業、自治体、
地域文化団体等の方

※定員に達し次第、お申し込み終了とさせていただきます。

Program

10:00~10:10 **開会挨拶** 宮本 博之 (リエゾンオフィス所長/理工学部 教授)

10:10~10:55 **講演 1** 阪田真己子 (文化情報学部 文化情報学科 教授)

10:55~11:40 **講演 2** 三宅 宏幸 (文学部 国文学科 准教授)

11:40~11:50 **休憩**

11:50~12:35 **講演 3** 佐藤 翔 (免許資格課程センター 教授)

12:35~13:20 **講演 4** 大井 将生 (文化情報学部 文化情報学科 准教授)



同志社大学
Doshisha University

12th DOSHISHA UNIVERSITY NEW BUSINESS FORUM

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム

変わらないものと 変わるものが紡ぐ、 文化と学びの新しいかたち

2026年 3月5日(木)

2015年に「新ビジネス」フォーラムを発足させ、本学の産官学連携をさらに全国規模に広げるとともに、本学の研究資源を基に新技術・新産業の創出に寄与できるような連携を目指し、テーマを毎回絞り研究シーズを紹介しております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

講演
1

伝統文化の未来：私達は何を残すべきか

時間とともに消えゆく無形文化財としての伝統芸能は、人から人への「口伝」によって継承されてきたため、後継者不足による失伝の危機に瀕しています。本講演では、これまでデジタル技術による身体情報の計測に加え、データ工学・データサイエンスを用いて様々な伝統芸能の「わざ」を保存・継承・共有することを目指した「伝統芸能ビッグデータ」の取り組みを紹介します。さらに、「私たちは後世に何を残すべきか」という問いを出発点に、今後はシチズンサイエンスの視点を取り入れ、市民の手で伝統文化を未来へ手渡していく可能性について考えたいと思います。



文化情報学部 文化情報学科
教授 阪田真己子

講演
2

古典籍がもつ〈情報〉 ー 過去から現在、未来へー

近年、古典籍（江戸時代以前の和装資料）のデジタルアーカイブ化が進み、各博物館や図書館などに所蔵される資料をインターネット上で閲覧することが可能となっています。その結果、様々な原本の閲読や確認が容易に行えるようになり、古典文学作品の研究も大いに進む環境となりました。しかしながら、では写真撮影などのデジタル化が行われた古典籍の原本は不要となるのでしょうか。本講演では、古典籍のデジタル化や原本を未来へとつなぐことの可能性について、これまでの経験を通してご紹介したいと思います。



文学部 国文学科
准教授 三宅 宏幸

講演
3

変わりゆく図書館と変わらないもの

必要な情報を容易に入手できるようになった現代。知の集積・提供を担ってきた図書館の役割も大きく変化しています。単に資料を借りたり、読むために図書館を訪れる人の数は全国的に減少する一方で、地域のにぎわいやコミュニティづくりの拠点、あるいは地域文化の発信・継承などの新たな役割を模索する図書館の中には、大きく存在感を増しているところも出てきています。図書館はどんな機能を新たに担おうとしているのか。人々・自治体からは何を期待されているのか。デジタル化の時代に変わりゆく図書館と、その中でも変わらない機能・役割について、データに基づく図書館学の立場から論じます。



免許資格課程センター
教授 佐藤 翔

講演
4

デジタル資料で加速する学習環境の イノベーションと学習デザインの拡張

多様な文化情報をStockし、社会や未来に繋いでFlow化する仕組みが、「デジタルアーカイブ (DA)」です。これは時間と空間の距離を飛び越える「タイムマシン」×「どこでもドア」でもあります。本講演では、そんなDAの活用、とりわけ教育活用にフォーカスします。例えば、小中高の教員と図書館・博物館・企業など、多様な属性の専門家が一堂に会し、多様な資料を教材化する「S×UKILAM (スキラム) 連携」の国内外の事例や、教育現場への支援に取り組んでいる活動として国の分野横断型プラットフォーム「ジャパンサーチ」の活用実践などを紹介します。



文化情報学部 文化情報学科
准教授 大井 将生

お申し込み
方 法

下記お申し込みフォームよりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/xWUNmwCsNQ>

お申し込み締切日
2026年3月4日(水)

※同志社大学は、個人情報保護に関する法令ならびに学校法人同志社「個人情報保護の基本方針」及び「同志社個人情報保護規程」に則り、漏えい、滅失又は毀損の防止その他の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じて管理します。お申し込みフォームよりご入力いただきました個人情報は「新ビジネス」フォーラムに関する管理・連絡、広告効果の測定及び同志社大学研究開発推進機構からの各種ご案内に利用させていただくとともに、これらの目的のため後援機関に提供いたします。

字幕、手話通訳等について、特別な配慮をご希望の方は、2026年2月5日(木)までにご希望の内容をお知らせください。
ご要望内容を検討させていただき、できる限りの対応を取らせていただきます。

